



学びの充実に向けて

校長 町田 大樹

木々の緑が濃くなり、強い日差しに夏を感じる季節になりました。

さて、ご家庭でのお子さんの会話の中に、担任以外の先生の名前が出ることはありませんか？

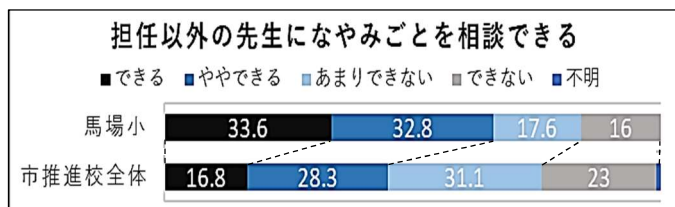
学校では子どもたちが担任以外の教職員と笑顔で挨拶を交わしたり、和やかに談笑したりする光景が日常的にみられます。本校では2年前より、市から「チーム学年経営推進校」の指定を受け、「一部教科分担制」を推進してきました。一部教科分担制とは、学年内で担任等が受け持ち教科を決め、その教科を複数のクラスで教える体制のことです。

一部教科分担制を行うと教員の受け持つ教科が減るため、授業準備にかかる時間を増やすことができ、より楽しい授業づくりに専念できるというメリットがあります。また、多くの教員が子どもと関わるため、子どもたちの児童理解、支援に役立てることもできます。一方、課題としては、子どもが相談したいと思った時に、担任が教室にいないといったことなどが挙げられます。

本校では数年にわたって、よりよい学年経営の在り方を探ってきました。一部教科分担制を進めることで、学年内の情報共有が進んだり、指導方針をそろえたりすることにつながりました。ひいては学年経営をすすめるチーム力の強化につながってきたように思います。子どもが担任に相談しにくいという点については、見方を変えると担任以外の教員にも相談しやすくなるというメリットにもなります。また、何か問題が起きた時には、学年以外の教員がクラスに入り、担任が当事者の子どもから話を聞く時間をとれるような体制もつくりました。

この度、市教育委員会から昨年度に実施した子どもの意識調査の結果が届きましたので、その一部を紹介いたします。右下のグラフは昨年度の本校6年生と推進校（77校）との比較です。

この調査結果からも本校では、「担任以外の先生に相談できる」と答えた児童の割合が、推進校全体より良好であることがわかります。一部教科分担制に取り組む学年や時期は学校によって異なりますし、このパターンなら必ずうまくいくというものでもありません。本校では昨年度、6年生は年度初めから



令和2年度 学校生活に関するアンケート調査より（値：％）

スタートし、4・5年生については学級づくりが軌道にのった年度途中から段階的に取り入れました。その取組は概ね良好であったと考えています。子ども一人ひとりの「わからない」「困った」「心配だ」という思いを近くの大人が受け止めることが、学校生活での安心、学習意欲、学力の向上にもつながっていきます。

本校では、他にも「食育実践推進校（令和2年度～）」『読みのスキル』向上推進校（令和3年度～）」の指定を市から受け、学びの充実に向けて取組を進めています。馬場っ子が日々「授業が楽しい」「学校が楽しい」と思えるようになるために何ができるのか、これからも教職員で知恵を出し合っていきたいと考えています。